



小田原 平塚・修善寺・柏久保証教会だより

2023年12月1日発行 第255号

КРЕСТЪ クレスト

2023年12月号

司祭 ディミトリイ 田中 仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX : 0465-22-2792 携帯 070-5079-3408

E-mail: holyspiritodawara@gmail.com

教団 HP: <http://www.orthodoxjapan.jp/>

小田原正教会 HP: <http://odawara-orthodox.com/>

郵便振替口座(小田原): 00270-6-15226

せい
聖なるダヴィド及び
あが
イエッセイは崇められ、
とうと
イウダは尊まる、
ね
蓋彼等の根より果として
いさぎよ
潔き童貞女、
えいせい
永在の神を生みし者は
おい
生い出でたり。
しょうしんじょしょうさい
生神女進堂祭 早課 カノン八歌頌より



イエッセイ (エッセイ) の木のアイコン

マトフェイによる福音書は、主の降誕に関する記述に先だってイイススの系譜で始まる。系譜は主イイススの父イオシフの先祖、つまりアブラムまで遡るが、マリヤの父母イオアキムとアンナもまたイエッセイ・ダヴィド・ソロモンの血統に生まれた。そうした出身の生神女マリヤが、父母イオアキムとアンナによってわずか三歳で神殿に納められたことを記念するのが生神女進堂祭である。教会では進堂祭を終えたあと、降誕祭を迎える前の二週間、聖列祖の主日と聖世祖の主日を記憶している。

●生神女進堂祭聖体礼儀 (祭日調)・聖歌練習会 (昼食後)

12月3日 (日) 10:00～ (9:30 痛悔)

使徒経: エウレイ 320 端(9:1-7)

福音経: ルカ 54 端(10:38-42, 11:27-28)

●五旬祭後第28主日聖体礼儀 (第3調)・月例パニヒダ・執事会

12月17日 (日) 10:00～ (9:30 痛悔)

使徒経: コロサイ 250 端(1:12-18)

福音経: ルカ 85 端(17:12-19)

●五旬祭後聖世祖の(第30)主日聖体礼儀 (第5調)

12月31日 (日) 10:00～ (9:30 痛悔)

使徒経: エウレイ 328 端(11:9-10)

福音経: マトフェイ 1 端(1:1-25)

年末年始の行事のご案内は 4 ページ
をご覧ください。

正教会にようこそ 34

お気づきだと思いますが、イコノスタシスは、聖所からすこし段を上がったところにあります。この壇を上がったところからイコノスタシスまでの空間を建築用語でビーマと言います。この空間の通路の部分、つまりイコノスタシスの前の通路をソレアと言います。…それでは、ソレアに上がり、少し広くなった正面のアンボンに立って、王門越しからイコノスタシスの向こうを覗いてみましょう。

9 あなたの体は神の宮

(第一コリント/コリンフ前書 6:19)

至聖所の奥にあるイコン、宝座、聖なるエネルギー、不朽体

ソレアに上がると、この腰の高さほどの王門から、イコノスタシスの向こうにある空間がよく見えます。正教徒はイコノスタシスの向こうの場所を「至聖所」と呼びます。(西の教会では祈祷する場所全部を聖所と呼ぶので、少々混乱するかもしれません。)正教徒の中には至聖所を「宝座」と呼ぶ人もいます。そもそも宝座とは、至聖所の中央にあるテーブルのことを言います。神父さんが「宝座の上」と言うか「宝座の中」と言うかで、どこのことを指しているのか、だいたい見当がつけること

ができます。

アプスと呼ばれる、至聖所の一番奥にある半円の空間の壁にもイコンがあるのが分かります。至聖所にもイコンがあるのです。あまり正教会を知らないところでイコンの話ばかりで嫌かもしれませんが、イコンから正教を学ぶことは沢山あるので、もうしばらく堪忍してください。宝座の真後ろの低い位置にあるイコンには弟子たちが領聖(カトリックの聖体拝領)をしている場面が描かれています。中央には最高位の司祭の姿をしたキリストが立ち、弟子たちに向かってパンと杯(ご聖体)を差し出しています。左には聖使徒ペトル、右には聖使徒パウロ/パウエル、彼らは弟子たちに中で最初に領聖します。この2人の後ろに5人ずつ拝むような格好で並んでいます。これはキリストが弟子たちと共に最後の晩餐を行ったと言う史実を描いたものではありません。パウロはその時はまだ弟子と共にいませんでしたから。おそらく多くの方は、一つのテーブルに弟子たちがキリストを中心に座っている絵を知っていると思います。この絵は一般的には「最後の晩餐」と呼ばれますが、正教会のイコンでは「機密の晩餐」と呼んでいます。それにはテーブル

※弟子たちの領聖のイコンは5ページ下に
ありますのでご覧ください。

の右端の方、つまりキリストの左手方向からパンを乗せた皿に手を伸ばしている弟子が1人描かれています。これがユダです。「あなたがたが知っているとおおり、ふつかの後には過越の祭になるが、人の子は十字架につけられるために引き渡される(マタイ 26:2)」弟子たちの中でそれが誰か分かるように描かれているのはユダだけです。アイコンでは、横顔で描かれる人は悪魔としています。

話は戻りますが、「弟子たちの^{りょうせい}領聖」のアイコンは天国における使徒たちの領聖を描いています。このアイコンの上には生神女マリアのアイコンがあります。ちょうど上に伸びる半円



アプスに描かれた「印のアイコン」

形の空間を満たすように、彼女の両手は祈るように上に広げられています。これは前の章でもお話しした「^{しるし}印のアイコン」と呼ばれるものです。このスタイルの生神女のアイコンも、ローマのカタコンベ(古代のキリスト教徒の墓)で何件か見つかっているほど相当初期から描かれていました。「あなたの至聖所に向かって手をあげるとき、わたしの願いの声を聞

いてください(聖詠 27:2/詩篇 28:2)。」と記されている通り、両手を上に上げたこの格好はオランテ(ラテン語で祈りを意味する)と呼ばれています。このようにして私達の祈りのリーダーでもある生神女マリアは、私たちに祈り方を教えています。「^{しるし}印」という名称は預言書に由来しています。「見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。(イザヤ/イサイヤ 7:14)」したがってこれは^{かいにん}懐妊した処女マリアで、彼女の胸に円が描かれ、その円の内側には星で表現した宇宙に囲まれたキリストが描かれています。

このアイコンは「プラティテーラ」とも呼ばれます。これはギリシャ語で「より広き者」何より広いかということ、宇宙です。これは^{せいだい}聖大バシリオス/ワシリイ(西暦 329-379)による聖体礼儀の後半の生神女を讃える祈り(セオトキオン)を読むと分かります。

おんちゆう み こうむ もの おおよ ぞうぶつ しんし
 恩籠を満ち被る者や、凡その造物、神使
 かいおよ ひと やから なんじ よ よろこ なんじ
 の会及び人の族は爾に因りて喜ぶ、爾は
 せい せいられし みや ちえ ちどう どうていじよ ほまれ
 聖せられし宮、智慧なる地堂、童貞女の誉
 なり、神は かんじ より みを とり よよ さき
 在す我等の神は 嬰兒となり給えり、蓋 爾
 の胎を宝座となし、爾の腹を天より広き者と
 なせり、おんちゆう み こうむ もの およ ぞうぶつ
 恩籠を満ち被る者や凡その造物は
 なんじ よ よろこ こうえい なんじ き
 爾に因りて喜ぶ、光荣は爾に帰す

小田原・伊豆・横浜年末年始の祈禱のご案内

◆ 横浜降誕祭 (Nativity of Our Lord Jesus Christ at Yokohama)

Great Compline/Matins / Office of the First Hour

徹夜 禱 : 2023 年 12 月 23 日 (土) 17 時~19 時 30 分

Divine Liturgy

聖体 礼儀 : 2023 年 12 月 24 日 (日) 10 時~11 時 30 分

小田原での祈禱はありません。No Liturgy at Odawara on 24th Dec.

◆ 2023 年 大晦日主日聖体礼儀 @小田原 今月はありません。

2023 年 12 月 31 日 (日) 10 時から 11 時 30 分 小田原の聖堂にて

※痛悔終了次第聖体礼儀をはじめます。

◆ 2024 年 元旦聖体礼儀 @横浜

New Year's Divine Liturgy at Yokohama

2024 年 1 月 1 日 (月) 10 時から 11 時 30 分 横浜の聖堂にて

※前日 12 月 31 日 (日) 17 時から徹夜禱を行います。

◆ 2024 年 元旦感謝祈禱 @小田原

New Year's Thanks giving prayer Odawara

2024 年 1 月 2 日 (火) 11 時から約 30 分 小田原の聖堂にて

※甘酒または緑茶をふるまう予定です。

◆ 小田原降誕祭 (Nativity of Our Lord Jesus Christ at Odawara)

Great Compline/Matins / Office of the First Hour

徹夜 禱 : 2024 年 1 月 6 日 (土) 17 時~19 時 30 分

Divine Liturgy

聖体 礼儀 : 2024 年 1 月 7 日 (日) 10 時~11 時 45 分

※祝賀会はありません。聖堂にて教会からお菓子のプレゼントを配布します。

◆ 修善寺・柏久保降誕祭 (Nativity of Our Lord Jesus Christ at Shuzenji)

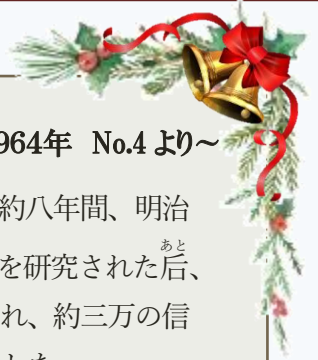
Divine Liturgy

聖体 礼儀 : 2024 年 1 月 14 日 (日) 10 時~11 時 45 分

※祝賀会はありません。聖堂にて教会からお弁当とお菓子のプレゼントを配布します。



↑ 弟子たちを領聖する主イイスス ハリストスのアイコン。手前から見て宝座の右に聖使徒パウエル、左に聖使徒ペトル。
(正教会へようこそ 2 ページから)



ニコライ大主教を想う① ～横浜ハリストス正教会婦人会だより 1964年 No.4 より～

日本正教会の創立者であるニコライ大主教は一八六二年七月我口に渡来、約八年間、明治維新前、キリスト教布教解禁迄日本語の本格的取得と我口の異教社会の実態を研究された後、五十年の生涯を日本正教の建設に捧げ、布教による開拓と牧会に、献身せられ、約三万の信徒を獲得して、偉大な功績を残し遂に愛する日本の土にその骨を埋められました。

思えばニコライ師は日本の使徒であると共に世界的大宗教家であります。私如き浅学非才の一信徒が、尊師を追想して語る事は、僭越でございますが、只私が少年の頃、ニコライ師にお目にかかった際の感動と先輩から聞かされたお話を記述して、ニコライ大主教の御感徳の一端をお伝えしたいと存じます。

今から百年前、日本宣教の志を抱いた二十四才の若き修道司祭ニコライ師は一八六一年八月一日、今のレーニングラードを出発した。当時は鉄道もなく果てしない未開のシベリヤの原野を単身一台の馬車を駆って横断され、途中幾多の困難と狼にも会うという危険をのりこえるという旅行でありました。併しニコライ師は日本宣教が、神よりの至上命令であると確信があればこそ、よく長途の苦難に耐え、その年の十月、ニコライエフスクに着き、彼地で越冬して、目的地日本の上陸されたのは、翌年の七月十四日でありました。

明治初年、我国で布教を始められる際、日本の昔からの宗教も民間信仰も、倫理、道徳も何一つ排斥せずに、在来の異教社会の精神文化は、すべて、神の御旨と掟にかなった摂理の現われとして受けとり、ハリスト教の精神により、これを補い、これを育て、日本の香り高き土壌の上に正教の福音を蒔かれたのであります。

上京された当初、築地で小住宅を借り、夜はその押入れに休まれ、昼は庶民の中に入って辻伝道をされ、ハリストスが教えられた真理と精神、正教の信仰の本当の姿を日本人の心と霊に吹き込まれ、共感を呼び起こしながら、初代教会の使徒にも劣らぬ熱烈な伝道活動を続けられたのであります。[続く] (小田原教会執事長 ロマン 中島 信一)

※原文の通り掲載しています。



修善寺墓地祈祷の様子



秋の聖堂(修善寺)



焼きたての聖パン！(小田原)